

協議会ニュース

39号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 1992. 5

エゴノキ (エゴノキ科)

1991. 5. 13

木曾川町若栗神社



花は白で5つ
に深く切れ込み
一面の花時には
良い香がします

名前が実がエゴノキなので
エゴノキと呼ぶのでようが
岐阜あたりでは器具材に
されるのか「クロノキ」とも
いわれます

花盛りの時以外つい見落と
してしまうエゴノキ。開花の波
で真先に伐られるでしょう。

絵と文 後藤 春

平成4年度

通常総会の結果

〔期日等〕

- ・期 日：平成4年3月22日（日）
- ・場 所：中小企業センター（名古屋市）
- ・出席者：36名

〔議案〕

次の5つの議案が提出され、全て原案通り可決されました。

- 第1号議案 平成3年度事業報告について
- 第2号議案 平成3年度決算報告について
- 第3号議案 平成4年度事業計画について
- 第4号議案 平成4年度収支予算について
- 第5号議案 協議会規約の改正について

〔主な意見等〕

総会において、次の様な意見が提出されました。協議会としては、今後の事業の実施や計画策定に際して、このような意見を尊重していきます。

- 協議会の雰囲気は固いので、楽しくやるような会にしたい。
- 名古屋市東山を始め、各地で自然破壊が進んでいる。実態を把握していく必要がある。
- 学校が土曜日休みになるので、自然観察会のPR等により、子ども向けの活動を行う必要がある。
- 自然の大切さを広く伝えるような観察会を行うこと。また、行政や市民に訴えるような事業も行っていく必要がある。
- 指導員の登録に関して、自然保護協会に意見を言う機会がない。
- 地域に密着した活動を行う会にすべきである。
- 事務局の構成員を、会員に呼びかけて募集するよう。

〔葉書による意見〕

3月に会員から葉書で寄せられた意見は次のようでした。（ ）内は、事務局の考えです。

- 自然保護思想の普及のための事業を行う必要がある。観察活動ではなく保護活動な行わないのか。

（会の目的に自然の大切さを普及することが入っています。自然観察会などの事業を通じて自然を大切さを訴えたいと考えていますが、何分力不足で思うようにいきません。今後はさらに努力していきます。新しい活動にも取り組む必要は感じていますが、スタッフ不足で限界がありますので、皆さんの協力をお願いします。）

- 会員の意見を吸収できるような会にすべきである。ともに考える会にしたい。

（今までの反省から、本年度は会の情報を支部や会員に積極的に流すとともに、会員相互の交流を図ることを重点に進める予定です。）

- 会の名称変更については、どう進んでいるか。

（会の愛称を考えたいと思っていますが、今しばらく事務局で検討させて下さい。）

- 学校の休日増加に対応して、子どものための活動を増やす気はないか。

（情報不足で現在具体的な計画はないが、今後の課題としたい。）

総会後の懇親会の報告

3月22日の総会后、初めての企画ですが、会員相互の親睦を深めるため、名古屋駅前の居酒屋において懇親会を開きました。

参加者は、大竹会長、中西副会長始め19名でした。

席上、さまざまな話題が出ましたが、極めつけはヒノキの間伐材を用いた入浴剤、セイタカアワダチソウの茎を用いた鉛筆の作り方などのユニークなアイデアでした。

なお、会費は3,000円でしたが、支払後の残金が12,062円になりましたので、協議会に寄付させて頂きました。

報告者：齋竹



総会アンケートから

総会参加者に次のようなアンケートをお願いしました。

①近況 ②総会・懇親会の感想

篠田 陽作 (名古屋支部)

- ① 約20名の観察会を運営しています。

横井 邦子 (尾張支部)

- ① 日進町自然観察会に属し、日進町をフィールドとしています。今年は天白川の流域の植物を源流から調査し、行政に働きかけ自然のままの土手を残す運動をする予定です。

- ② 女性の会員の出席が少ないのが残念です。恐る恐る参加させて頂きました。懇親会、とても楽しく有り難うございました。

福西 寿広 (名古屋支部)

- ① 相変わらずの山狂いで、なかなか協議会の行事に参加出来ず申し訳なく思っています。
② 思ったより参加者が多いのでびっくりしました。

近藤 盛英 (名古屋支部)

- ① 近所の子供たちと一緒に近くの雑木林に行ったり、いろんな観察会に「一般」として参加するようにしています。
② 懇親会が特に盛況でよかった。

妹尾 幸雄 (名古屋支部)

- ① 観察会は休眠中。目下、登山といで湯を楽しんでいます。
② 良かったです。

増田 武 (名古屋支部)

- ① 観察＝静、スポーツ＝動と思われる。ネーミングについて悩んでいます。
② 総会、有意義でした。多くの地域の人に如何に興味をもってもらい、入って楽しんでもらうか考えています。

北岡由美子 (尾張支部)

- ① ものみ山で遊んでいる。
② いろいろ意見が出てよかった。

三輪治代美 (尾張・名古屋支部)

- ① また山に登りたくなってきた。

後藤 春 (尾張支部)

- ① 観察会集合時間には、皆が間に合うよう

青野 崇史 (名古屋支部)

- ① 椎間板ヘルニアの為、無理できなくなりましたが、出来るだけいろいろ参加したく思っています。

- ② 活発な総会で久しぶりに楽しく参加できました。講演も分かりやすく面白いものでしたし視点を変えることも学べました。

落合 宏一 (名古屋支部)

- ① 冬眠中

越湖 信孝 (名古屋支部)

- ① 総会の出席者が少ない。外は良い天気。総会の時期は1月末か2月がよい。出席者が多くなるような魅力ある会にして欲しい。近田先生の講演は大変よかった。もっと多くの人に聞いて貰いたかった。

斉竹 善行 (尾張支部)

- ① 去年は、岩倉市内の社寺林・公園などの樹木調査を実施しましたが、引き続き樹木リストづくりをするつもり。

- ② 初めての懇親会でしたが、ユニークな発想が聞けて感激！

橋本 哲 (尾張支部)

- ① ペーパー指導員で協議会のお荷物的存在で申し訳なく思っています。

- ② 事務局、役員の方々には大変お世話になっております。

堀田 守 (名古屋支部)

- ① 猪高の観察会で協力しています。

- ② ノミネーションはコミュニケーションに通ず。

山中 英雄 (名古屋支部)

- ① 草花の写真を撮りにいろいろ出ています。

- ② また、このような企画をお願いします。

山田 博一 (尾張支部)

- ① 普及部で悩んでいます。

- ② 良かった。



▲ 近田先生の講演

▼ 懇親会風景



会 員 近 況

梶野保光（東三河支部）

昨年講習会を受け、仲間入りをさせていただいて、平成4年から本格的な自然観察の日がやってくることを期待しています。勤務する三ヶ日町瀬戸のハマナコスタでは、風媒社の自然観察シリーズの書籍を始め自然グッズを販売し、協議会の情報も掲出させていただいています。

相地 満（知多支部）

5月に環境教育学会の大会が愛知で開かれますが、その際「自然観察の活動は何をめざすか」というテーマで、小集会を持ちたいと思っています。

鈴木晃子（名古屋支部）

愛知県植物誌調査会の仲間になりました。これで少しは植物の名前が覚えられる……というのは甘い考えでしょうか。名前にこだわらないけど、名前を知ることによってその植物や動物と親しくなれる気がします。

武田 篤（名古屋支部）

市との懇談会、湿地調査、東山の観察会、アースディ展示など盛り沢山やっています。東山の観察会は、4月で50回になります。

広瀬 鎮（尾張支部）

近年、自然と文化複合のサイエンス・ウォッチングが進められていることに興味を持っています。

福西寿広（名古屋支部）

職場の仲間やパソコン通信で知り合った仲間と、休日は専ら山通いです。3月20日頃は、浅草岳・守門岳ヘスキの計画です。

三ツ石 清（名古屋支部）

環境庁自然公園指導員として、愛知高原国定公園・東海自然歩道をよく歩いています。東山植物園ガイドボランティアも始めました。

池田芳雄（顧問）

最近、樹木の方にも関心が高まり、精力的に観察を始めました。前々から地質と植生の関連には気が付いていましたが、自然が一層理解できるようになり、フィールドが益々楽しくなりました。

佐藤徳次（顧問）

植物の知識もなかなか増えないので、何か一つに集中したらと思い、難解のヤナギをやります。尾張地方で、自生・栽培合わせて18種を見ました。木曾川等の自生で最も多いのがマルバヤナギ、次いでナガバカワヤナギです。生花用に栽培するもので最も多いのはフリソデヤナギ、次いで石花ヤナギ（オノエヤナギの帯化品）です。水田の境に植えられているのがジャヤナギで、時にタチヤナギのこともあります。



指導員研修会

○114.2.29-3.1 於入鹿荘～本宮山(犬山市)

今回一番盛り上がったのは、研修後の懇親会の飲み会でした。今までは勉強で終わっていたのを、思い切って、酒を味わうことも自然観察の一つだとして、しっかりと生酒「春一番」の観察会を夜の懇親会で行いました。参加者一同、五感を通してこの季節しかない生酒の観察をこよなく行い、和んだところで、ざっくばらんに談笑しました。このように本音を出し合って話すことも必要だと思いました。今後の会の活動には、このように楽しくワイワイやれるものをもっと取り入れようと思います。

室内研修では、環境教育に関するいろいろな資料の配布につづいて「自然観察と自然保護」をテーマにして、自然保護協会の職員と意見交換を行いました。次の日は、尾張本宮山のシダの観察会を行い、めったに見ることのできない貴重な美しいシダを十分に堪能することができました。

〔日本自然保護協会普及部の一寸木 肇さんの話された内容の要点〕

神奈川県は指導員は260名ほどで、自然保護活動は、人集めの時、会報で紹介するなどの側面からの援助だけで、連絡会で自然保護に直接タッチはしていません。「私達のまわりにある自然を、次世代にどう残すか？」というテーマを持って連絡会は、自然観察を行い、そこから、自分達のまわりの自然の良さを見つけた事をやり、それが長い目で見ると保護につながっていると自信を持っています。自然保護を前面に出すと、言葉だけが一人歩きしてしまう恐れがあるので連絡会としてはやらず、どうしてもやりたい指導員は二足のわらじをはいてもらっています。行政との関係を見ると、神奈川県では行政がトラストをやっているくらいです。すんだところで、行政職(環境保全課)の職員でも、表向き活動しなくとも、継続は力であると自分で続けられる範囲でやっています。また、シティサファリーの都市の自然観察(駅前をもう一度見直す)では、歩いて気持ち良かった所はどこか?嫌なところはどこか?それをなんらかの形で行政にそれを反映させています。もし、行政との意見の相違が出て、けんか役が出た場合でも、必ず仲良くする役がでます。行政とは良い関係でないと、運動は成就できないと思います。

教育現場を見ると、文部省は環境教育を自ら打ち出しましたが、ベオグランド憲章をどこまで許すのかは未だわかりません。ドイツの本で「緑の森はだれのもの」のように、先生が子供達と観察会をやって、最後牢屋に入れられてしまうような時代がもう二度とこないことを祈りたいものです。しかし、行政などとの対決以上に、今の現場の先生は、まわりの自然に目がまったく向いていない。これの方がより恐ろしいと思います。

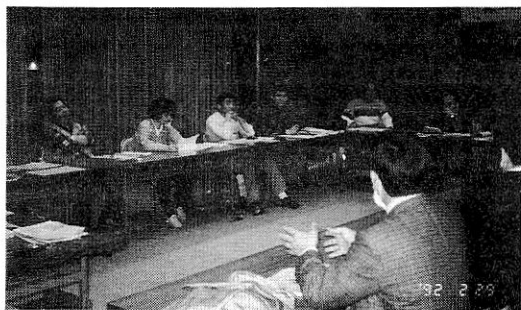
昨年行われた、タイムスリップオリエンテーリングでは、明治時代の富国強兵策を行っていたときの退避図(明治時代の古い地図)を持って、歩きまわって、当時の地形図と今の地形図を比較してみたところ、わざわざ自然を潰しておきながら、まったく同じ様なものをもう一度作る馬鹿げたことを人間がしているのがわかり、参加者は唖然としたということです。(浜を潰しておきながら、波の起きるプールを作る様なこと)今、現在行われている愚かなことを多くの人に知ってもらいたいですね。

品田 穰の「都市の自然史」で「自然はどうして大切なのかは、だれも現在結論は出せないが、もし、自然がなくなったらどうなるかは、江戸という町ができて人々が代償行為として、物見遊山、紅葉狩り、ほおずき市を行ったことから、うかがい知ることができます。」

まだほとんどの人が気がついていない、「無限の時代から、有限の時代へ」の自覚を持った自然観察をやるべきだとおもいます。

〔ものみやま自然観察会の取組をやっておられる瀬戸自然の会事務局の北岡由美子さんの話〕

女性に参加してその後意識が高いが、男性は無関心か、一度参加すると次は一人で行って悪いことをする傾向にあります。その点お年寄りには、山に来ると素晴らしい話をしてくれます。老人の知恵は残さなければならない貴重なもので、お年寄りのパワーをもっとどんどん使うべきだと思います。ものみやまは愛知万博の予定地ですが素晴らしい自然が残っています。皆さんに一度歩いてもらいたい。



〔シダの観察会の講師をやってくれた岐阜県自然環境保全連合の村瀬正成さんの話の要点〕

今西錦司を初代の代表とした岐阜県自然環境保全連合は、岐阜県各地の自然保護団体と個人の集まった連合体で、新聞社やテレビ局とのパイプが太く、長良川河口堰、尾上郷の基礎調査と環境アセスをやっています。また、自然林に無理やりスキーコースをつける御嶽リゾート開発への公開質問状や、東海環状道路工事予定地のシデコブシ・ハナノキの本数を調べる基本調査もやっています。自然観察指導員連絡会は、保護運動の活動家を中心になったことにより、行政をやっている人と公立学校教員が出にくくなってしまっているのが現状です。現在の活動は先細り気味で、指導員相互の連絡もままならず、自然観察会や研修会も停滞気味です。保護運動をやると去っていく会員も多数出てくるという辛い教訓を得ました。

可児市の場合、開発に際して業者はすでに地元の有力者に手を打ってしまい、一般の人は物が言えなくなっていました。対称的に、よそから来た者がその自然の素晴らしさに気がついて保護運動をやりはじめました。具体的には、観察会・ハイキング・写生会・バードウォッチング、写真大会を行い、賞状とトロフィを新聞社より出してもらい、学校で校長より表彰してもらい、この様に「どうやって自然観察をやると、自然保護につながるのか?」と言うことを考え自然観察をやりました。協議会でも自然保護をバックボーンとした自然観察会が行えるということです。身近で本当に大事な自然の何を残したいか?それを一般の人から吸い上げることが、協議会でできる役割の一つであると思います。可児市には火山角礫岩とチャートが重なりあった地域があるので、地団研の野外研修の場として提供して、学問的に重要だと言うことをアピールして、テレビ局や新聞社を使った写真展を行い、地元の人に貴重な生物や地質の存在を知ってもらいました。その結果コースの手直しがなされ、作っぱなしではなく、開発業者が金を出して我々に委託して、野外動物の調査の小冊子を作らせました。また市に土地を買い取ってもらい可児川下流自然公園事業をスタートさせてもらいました。「市」主催の市民大学講座で、地元の年寄りにしっかり話をすることができました。過激な反対運動や、お上と敵対することでは何も残らないという教訓が残りました。話のパイプを残しておいたことが成功につながりました。海上の森でも、愛知万博をただ反対と言うのではなく、海上の森を調査してどういうふうにして残すのか案を出して持っていくようにしてはどうだろうか。協議会で自然保護を行政に教えるくらいの気持ちで取り組んだ方がよいとおもいます。自然保護が成功する秘訣は、①マスコミを使う。②行政と太いパイプを作っておく。③保護するメンバーと地元の代表者のしっかりした人間関係を作っておく。④チャンスを捕らえたら逃さず全力で動く。(⑤議員を上手に使う。)

(山田 博一)

お知らせ

< 運営部会から >

1 ネーチャーゲーム初級指導員養成講座

ネーチャーゲーム研究所の主催で次の講座が開かれます。(本会も共催となっています。)

・期 日: 4. 6. 19(金)~21(日)

・場 所: 長久手町 青少年公園(予定)

・参加費: 19,000円位

3 「地球環境 女性連絡会」について

国際的な地球環境に関する活動を前提として研究会の開催、情報交換等を行う女性の会ができました。(個人会費 3,000円)

・事務局 地球環境女性連絡会

東京都世田谷区宮坂 3-19-4

〒156 FAX 03-3439-3599

岩倉の自然をたずねて」発刊の案内

岩倉市が、市制20周年記念事業の一環として1991年度に編集していた「21世紀を生きる子供たちのために自然からのメッセージ——岩倉の自然をたずねて」と題する自然紹介誌が発刊されました。

この本は、土地区画整理や土地改良事業が進み、農地や樹林地などの身近な自然が消失しつつある中で、岩倉の自然環境の実態を1年かけて調査したうえで、その結果を単なる動植物のリストに終わらせることなく、一般の市民の方々にも理解されるように、写真とやさしい文章で紹介しています。

監修は、本協議会の会長の大竹勝さんが当り、岩倉市に関係する会員も調査及び執筆に参加しました。

1,000部作成され、図書館など関係のところに贈られましたが、希望者には1部3,000円で頒布しています。

〔問合先〕☎482岩倉市昭和町2-17

岩倉市公民館 ☎0587-37-0257

私のフィールド

名古屋支部

篠田陽作

野次馬根性の為か、いままで色々と、手掛けて来ました。タナゴの生息分布調査では、西は岐阜県南濃町の駒野の水路や池から、南は明治川水、油ヶ淵、北は長良川の支流の、杭瀬川や、掛麦川の支流、堀切をした田の中の水路や池、東は猿投山から豊田にかけての灌漑用の溜め池佐織町と津島市のあいだ流れる、わずか4.7 kmの目比川等、その他にも多くの池や、川、沼等を調べました。その結果感じたのは、どこもまわりの環境の悪化や、宅地化によって、水質の汚濁や、埋立てられたり、水路のコンクリートの三面ばりの為に、タナゴの産卵をするための二枚貝が全滅してしまい、やがてタナゴも全滅をしてしまいます。やっと農業がへってきたのもつかのま、農地改良事業為に、ブルドーザーで池も小川も一瞬に埋立てられて、そこに生息する水生昆虫、タナゴ、モロコ、水辺の植物もすべて消えてしまいます。結局タナゴの生息調査でなく、埋立てされる池、川、沼、の調査をしているようで、最近は調査する元気がなくなりました。

さて今度は植物の話をしてしましよう。特に貴重な種とか、食虫植物とか、野性蘭とかでなくごく平凡な雑草や、山野草などの仲間が好きですからフィールドは何処でも構いません。

それでもよく出かけたのは、岡崎から桜形、東大沼、蘭、下山、作手、段戸裏谷、段戸山、さらに稲武町の黒田ダムのバックウォーターの湿原のトンボや湿地の植物など色々見て歩きました。最近では中々時間がとれなくて身近なフィールドに出かけています。市内の植田山から藤巻町、さらに植田川沿いの草地や畑地です。

ここもまた宅地化の波が押し寄せて居ます。数年前までは雑木林と、湿地と池があったところに水抜き用の水路が造られて、やがて池も、

湿地も埋められて公園や宅地に変わって往きます。このあたりの雑木林には、鳥の巣が多く今年も7~8個みつけました。また植田川との間だの草地には、毎年ヒバリが営巣します。植田川では冬にはコガモ、ヒドリガモ、カルガモ、マガモ、など多くのカモが観察できます。川のなかには30~40cmの鯉が群がって泳いでいます。それを釣りに来る子供の姿よく見かけられます。その他に、キセキレイ、や河原の雑草の実を食べにアトリ科のカワラヒワ、ベニマシコ、もみられます。その天白川をすこし下流にいくと、相生山緑地があります。ここもたいへん自然の豊かな所です。東側に学校があり、北側には公園と梅林、菅田池があり、しかし残念なことに今この池は全面コンクリート張りに改修中です。雑木林と畑と宅地が入り交じっています。その中に徳林寺、薬書塔等があり、西側は畑とゴルフ練習場になっています。緑地なのになぜか家が建てられるのか不思議です。この雑木林は鳥たちのねぐらになっているようで、夕方になると、20~30羽群れであちこちから帰ってきます。さて最後は大高緑地です、この公園はよく整備されていますが、所々に自然の植生が残っています。池もあり湿地もあり、色々な生物昆虫が観察出来ます。特に鳥が多く、カワセミ、カッコウ、ヤマシギ、アリスイ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、オオタカ、ハイタカ、などなどとても楽しいところです。年間60~70種ぐらいの鳥が見られます。植物もナンバンギセル、モウセンゴケ、ツリガネニンジンなど変わったものが見られます。

観察会報告

尾張支部月例観察会（3月8日）

「定光寺観察会」

海部郡立田村県営葛木渡船場付近

参加者 — 18人

春を求めて、定光寺駅から正伝池を通り宮刈池まで歩きました。暖かく穏やかな日で、春を探すには最高の1日でした。

正伝池から宮刈池へ行く途中のアスファルト道路を歩いていると、上空をノスリが大きく旋回しながら飛んでいました。お蔭でみんなじっくり眺めることができました。

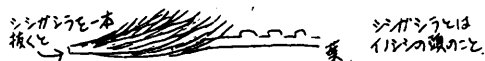
山道に入ってしばらくすると、ショウジョウバカマが咲きだしていました。まだ蕾のもの、蕾が開きかけているもの、そして開いているものと段階を追って見ることができました。ショウジョウバカマの花の咲かせ方は、先ず花を開いてから花茎を伸ばすようです。新しい発見に大満足！

さらに歩いていくと、チョウの姿がありました。成虫で冬を越すテングチョウです。暖かさに誘われて、道沿いの日溜まりで羽を広げて日光浴です。羽を広げると、オレンジ色がとてもよく目立ちゆっくり観察できました。しかし羽を閉じてしまうと、地味な模様が現れるため姿が急にわからなくなってしまいます。これも、敵から身を守るための生きる知恵なんですね。

宮刈池にはヒキガエルが待っていました。池に近づくと、必死にドロの中に潜ろうとする姿がけなげでした。この後、あちこちでヒキガエルを見ました。水たまりで交尾しているのもしました。その周りにはもう卵だらけでした。

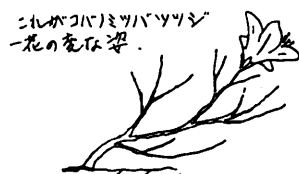
宮刈池の道沿いでご飯を食べた（皆さんすみませんでした）後、帰りはまた同じ道を行くつもりでしたが、松山さんが知っている別の道を帰ることになりました。ソヨゴやツツジの多い尾根道歩きでけっこう距離と起伏があって大変でした。でもそのお蔭で、シシガカラというシ

ダの名前の由来がわかったし、ツツジの仲間で春一番に咲くコバノミツバツツジが一花だけ咲いている姿を見ることができました。



さらに歩いて勤労者研修センターの前を通り正伝池へ続くアスファルトの道へ出ました。最後にマンサクの黄色い花、奇妙な植物ヒノキバヤドリギ、ヒキガエルを見て正伝池の入口へ到着。

はっきりしたテーマもなく、長丁場の山歩き皆さん、ご苦労さまでした。（平井）



簡単なウッドクラフト ①

名古屋支部 椿 幹雄

檜の枝打ち材などを利用して、檜風呂を楽してみませんか？

I. 効能

- 1) 殺菌効果がある。
- 2) リラックスできる。

II. 準備品

- 1) 檜の小枝
直径2cm、長さ50cm程
- 2) 鋸
- 3) サンドペーパー
- 4) タマネギなどをいれる網袋

III. 作り方

- 1) 檜の皮を剥ぐ。
- 2) 鋸で10cm程の長さに切りそろえる。
- 3) 切り口にサンドペーパーをかける。
- 4) 網袋に入れて、完成。

IV. 使用法

浴槽に入れると檜の成分がでます。
使用後は干すと、繰り返し使用できます。

自然だより



知多支部より

1. 自然だより

トウキョウサンショウウオの卵囊は28対(56個)、3月24日現在です。

2. 知多自然観察会の10年誌、発刊しました。

3. 知多の自然談話会の行事予定

①5月1日(金) 8:30～

- ・知多半島の海浜植物について
- ・中井三従美

②7月5日(日) 9:30～

- ・野外巡検
- ・知多半島の湿地見学
- ・和田基巳

ものみ山だより

尾張支部 北岡由美子

海上の春は、ギフチョウでいっぱいの一言です。4月上旬に海上の森へ行けば、ギフチョウに会えない日はありません。もちろん雨の日を除いて……。今年は桜の開花が早かったせいか、満開のサクラと蜜を吸っているギフチョウの色合いは、最高の取り合わせでした。歩いてぶらっと行けて、普通にギフチョウに出会える所は、今時あまりないのではないのでしょうか？

木々の芽吹きも1～2週間ほど早く、ヤマザクラとソメイヨシノが同時に咲き、異様な気もしましたが、海上の森には淡い白花のカスミザクラも多く、その美しさは幻想的ですからあります。このように、海上の森はヤマザクラの里でもあります。

日本野鳥の会愛知県支部が、毎月第二日曜日に探鳥会を行っています。先月は海上の部落周辺でオオタカ2羽を観察でき、ひょっとしてどこかで営巣しているかも・・・と思いました。イカルがのどかに囀り、ウグイスが歌い、海上の森はとっても生命力溢れるのどかな山里の春そのものです。

田の畦にはハルリンドウが青い星のように咲き乱れ、ノミノフスマが真っ白な粒々を緑のじゅうたんの上にこぼしたように咲き、レンゲ・タネツケバナ・ムラサキサギゴケ・ミツバツグリと色とりどりです。

また、里や山のあちこちには春の小川そのものがさらさら流れていて、もうドジョウやヨシノボリも活発に泳いでいます。

今年の春も美しい自然の姿をみせてくれましたが、ある日突然・・・という危機にあります。花のように美しく白銀緑色に輝くコナラの芽出しが永久に続くといひのですが。

来る5月31日(日)に名古屋市鶴舞公会堂にて「どうする自然、愛知万博シンポジウム」が開催されますので、是非ご参加下さい。

～犬山発自然情報 Naturig NO.29、4/4～

大竹 勝 発行より

ハルリンドウの花

4月3日、今年の犬山市の自然観察会の予定地の東大演習林を歩いてみました。橋爪池の周辺ではタチツボスミレの花が咲いていました。フモトスミレの花はまだ見られません。尾根筋ではシハイスミレ、田んぼの近くではツボスミレが花をつけていました。ショウジョウバカマの花は盛りを過ぎましたが、池の近くでは花をつけたハルリンドウを見つけました。以前にはどこにでも見られたこの花も最近少なくなり久し振りの対面です。写真を撮ってから暫く山を見ていて振り返ると花が閉じています。先程まで太陽が照りつけていたのが、雲で陰ったのです。雲が通過して陽が当たり暫くしてから、紫色の可愛らしい花を開きました。この花は太陽に対するセンサーを持っているのでしょうか。自然の巧みな営みにしばし時を忘れました。

失われゆく身近な自然

尾張支部 齋竹善行

協議会ニュース35号の「私のフィールド」で岩倉の津島神社を紹介しました。繰り返しのようですが、ここは面積は広くありませんが、シラカシ、ヤブニッケイなどの照葉樹を主体とした林で、市内では最も自然が豊かなところです。丘陵地で二次林が残っているところなら、それ程目立たないかもしれませんが、市街地と農地くらいしかない岩倉では、自然の面からはかけがえのない場所で、公民館講座の「自然体験教室」の舞台ともなっていたところです。

ところが、その後、この地域で土地改良事業が進み、周りの水田の区画の変更、道路や水路の整備の工事が始まりました。林のすぐ横を水路が通るということで、少しは木が切られるかもしれないと思っておりましたが、何と、水路にかかる部分のみならず、林縁部のフジなどのマント群落と林内の幼樹がほとんど全て伐採されて、下の方は外から見通せるようになってしまいました。

神社林は、大切にされてきた結果、良好な樹林地として残ってきたのに、今回なぜこのような無残な伐採がなされたのでしょうか。調べてみると、意外なことがわかりました。

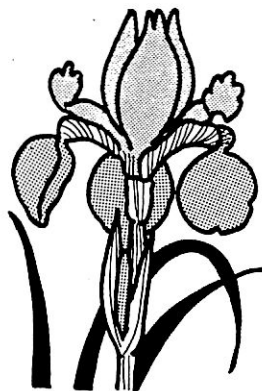
この林は、樹木がよく繁り、外から見通せないため、中学・高校生がここでも集まり夜遊びをすることから、風紀上の問題があると言うので、地元から土地改良の工事請負業者に樹木の伐採をさせたということでした。そう言われてみると、ジュースの空缶やヌード写真の載った雑誌が捨てられているのをよくみかけました。しかし、このような青少年の夜遊びは、この林を切ればここでは行われなくなるかもしれませんが、場所を変えて行われると考えられます。それゆえ、伐採は根本的な解決にはなっていないはずで、安易な考え方によるものといえます。

これから手を加えなければ、マント群落はある程度時間が経つと回復することが期待されますが、風紀上、問題があると言って毎年切り払っていると、林の変質が進んでしまうと考える

れます。安易な考え方で、市内の残り少ない自然が失われていくことを悔やまずにはいられません。

近年、開発に伴い自然破壊が進む例はいたるところで生じていますが、この事例は、開発が行われなくとも、私たちの安易な考え方が自然を壊すことを示しています。

このようなことは、他にもいろいろとみられるのではないのでしょうか。もう一度、みんなで自分たちの周りの自然と私たちの生活のし方や考え方を見直してみませんか。



トウキョウサンショウウオの生息 西限地などをめぐって

知多支部 相 地 満

1 はじめに

昭和56年(1981)に発行された第2回自然環境保全基礎調査(環境庁53・54年度実施分)による「愛知県動植物分布図」には愛知県内におけるトウキョウサンショウウオの生息地が尾張丘陵の西端部に7か所(その内5か所に?印)、知多半島に6か所、渥美半島に3か所記録されている。その後、10年を経過した現在、知多半島に記された6か所における継続した生息の維持はほぼ絶望的と見受けられる。

そのような中であって、1890年に自然観察指導員の加藤寿芽先生が発見された1生息地は狭い地域でありながら90年に約30対60卵塊、91年に約40対80卵塊、92年に約25対50卵塊の産卵が確かめられている。1ペアで1対2卵塊を産むことから推測してこの地には50~80の成体が生息していることになり、今後の動態が注目される。

2 トウキョウサンショウウオとカスミサンショウウオ

日本には20種類弱のサンショウウオの仲間が生息し、一般にも有名なものはオオサンショウウオであるが、それにもまして小型のサンショウウオの種類が多く、そのほとんどが日本固有種であることが注目される。各地で地理的に隔離された結果、日本という狭い地域内で多くの種に分化したと考えられており、他の両生類と同じく低地性・山地性・止水性・流水性、また溪流性などと生活地によって分類されている。

トウキョウサンショウウオとカスミサンショウウオはともに低地性の小型のサンショウウオで丘陵周辺部の静水中に産卵し、生態的にも形態的にもよく似たサンショウウオである。

鰓口蓋歯列(上顎の歯の並び)の形や前後肢間の肋条数などで区別されるが、愛知県のもの

はその中間的な特徴をもつとされている。

例えば卵塊の形においてはトウキョウサンショウウオの卵塊がバナナ状に弱く屈曲し、カスミのそれはコイル状に巻くのが特徴とされているが、愛知県のは1回あまり巻いていること、カスミサンショウウオの特徴である尾上端部の黄条を持つものがあること等である。

現在、飼育中の10cmになる成体の肋条は12本で尾上端部に不明瞭な黄条を持っている。

	トウキョウ	カスミ	知多産
肋条	普通12	13または12	12
黄条	なし	あり	あり
卵塊	バナナ状	コイル状	1回巻
卵数	20~50	30~60	40~80
歯列	U型	V型	未確認

3 トウキョウサンショウウオの分布西限地はどこか

西のカスミサンショウウオ、東のトウキョウサンショウウオ、ともに低地性のこの2種のサンショウウオの生息分布を分け隔てているのはどこであろうか。

千石正一氏は「原色両生・爬虫類」1979において鈴鹿山脈以西にカスミサンショウウオ、以東にトウキョウサンショウウオの分布を示されている。川村智治郎氏は「新編日本動物図鑑」1979においてカスミを近畿以西に、トウキョウを関東地方・福島県および愛知県に分布するとされている。しかしながら現在、鈴鹿山脈以東、養老山地周辺までのカスミサンショウウオ分布が確かめられており(三重県立博物館研究報告「自然科学」第2号1980、養老山脈南部丘陵地自然科学報告書/北勢自然科学研究会1986)、混雑地がない限りトウキョウサンショウウオ分布西限地は知多半島に位置付けられることになる。もう少し詳しい調査が必要であるが、伊勢湾を挟んで東にトウキョウ、西にカスミということになりそうである。そういった意味からもこの地におけるトウキョウサンショウウオの動向を注意深く見守りたいと思っている。

1982・4・10

クレセントカスト

— 波にあそぶ小石たち —

東三河支部 高橋 康夫

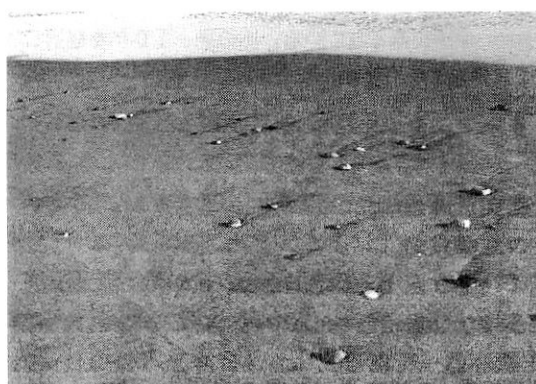
はだしになって、波と追いかけてこするのは、とても楽しい遊びです。波に追いつかれて立ち止まったとき、引いていく波に足の下をえぐられて、くすぐかったことはありませんか。波が引いてしまった時、足から海に向かって、砂のすじが延びていませんでしたか。

波の引いた浜のあちこちに、写真のようなたくさんの小石があり、その小石から海のほうに黒っぽいすじが延びているのようが見られることがあります。

こういう現象を、「クレセント・カスト」と言います。でき方は波が引くとき、石の海側の面近くに渦ができ、砂をけずっていき、場所によってけずられ方が異なるための作用と考えられます。

詳しく調べるつもりなら、なぎさに小石を置き、波のひきたあとのもようを観察しましょう。石の大きさ・形・砂浜の傾きなどによって、どのように違うか、いろいろなところで比べてみると面白いでしょう。

このことによって、水の流れた方向が分かりますので、水の引いた川原で見つかればそれを知る手がかりとなります。



「豊田市自然観察の森」からの便り

夏鳥の訪れ

尾張支部 長尾 智

私たち職員は、利用者の皆様に「森」の最新情報を提供するために時々調査を行っています。対象は今のところ、野鳥・樹木・草花・昆虫一般・蛾・気象などです。

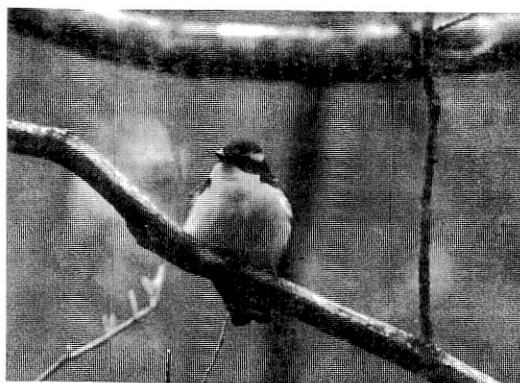
今回は、1990年4月～1992年3月の2年間にわたって調査した野鳥のうち夏鳥を取上げ、その中でも比較的良好に観察できた種についてデータを載せることにしました。

これを参考にされて、探鳥にお越しく下さい。



サンコウチョウ

種名 \ 月	5			6			7			8		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
キビタキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
サンコウチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
ヤブサメ	○			○	○	○	○	○				○
オオルリ	○	○	○									
サンショウクイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
ホトトギス	○	○		○	○	○	○	○				
ツツドリ	○	○										
ヨタカ		○		○			○					



キビタキ

自然観察施設訪問6

ーキープ清里サンクチャリーー

中西 正

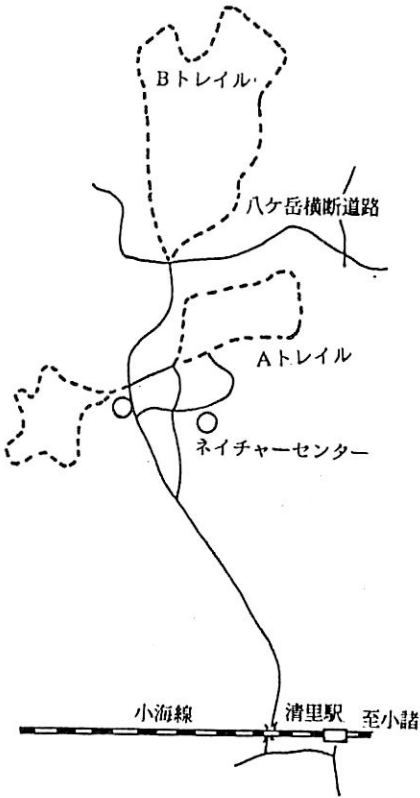
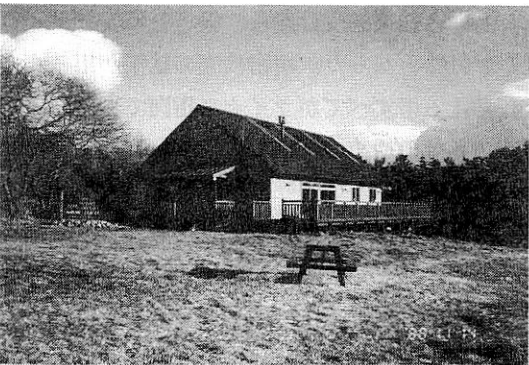
「清里」の名を聞いて若者ならすぐにピーンとくるだろう。この一帯は有数のペンション村であり、夏には東京が移ってきたように、若者でにぎわう。更に、清泉寮といってピーンと来ればヤングギャルの仲間に入れる。ここには有名なアイスクリームがあり、山の中であるにもかかわらず、いついっても長蛇の列ができている。

海地方では秋真っ只中の11月、清里はすでに初冬である。この時期に開かれる環境フォーラムも五回を数えた。このうち二回に参加した。最後になるという五回目の1991年には申し込みまでしたが、仕事ができキャンセルしてしまった。大竹会長は皆出席ではなかろうか。全国からいろいろの立場の人が集まり有意義なものであった。この成果は小学館から刊行されるということだ。

フォーラムの間に清泉寮の施設を回った。清泉寮はカトリック系で牧場を持った営農施設である。現在はもっと幅を広げた施設作りが行われ、自然観察路も作られている。

八ヶ岳山麓は礫が多く、はえる植物はマツやツバキの仲間が多く、歩くに気持ちいい自然だ。11月には木々の葉はほとんどなく、朝には霜もつく。自然観察路はコースが3種類ある。その途中にはネイチャーセンターがおかれている。センターがある、その一角だけ林が切り開かれ、周辺は草地になっている。木造の平屋、高床の格好は、一見開拓地の小屋といった雰囲気である。真冬には、この広場に獣が出てくるのではないかと思われた。中の展示は、この自然観察路と八ヶ岳の自然が紹介されている。展示の多くが、手作りの情報といった感がある。このためか、センターの中にはぬくもりが感じられる。部屋は二部屋で、角には自然グッズもおかれている。

八ヶ岳山麓の自然を背景に、自然観察のための独自のプログラムを持ち、夏を中心として観察会が行われている。常に、施設やプログラムの研究が行われて、それが実行に移されている。清里に行った時はアイスクリームだけでなく、キープ協会のプログラムに参加し、その自然を歩いてみることも楽しいと思う。



私と鮎の物語

～釣りから見た自然の今、昔～

東三河支部

武田 孝夫

プロローグ

昨年(2022)の5月、大腸ガン検診でガンの疑いありという結果を受け取り、驚きと不安でノイローゼ気味となった。精密検査の結果が出るまで、考える事すべてがマイナス指向であった。

6月の初めのある夜、老妻が玄関でホタルが光っているという呼び声、見ると遠い昔の物語にある様な光であった。またある日、鮎釣りに出掛け20センチ級が25匹も釣れた。記憶にない大漁であった。この事は大腸ガンで死んでいく私にホタルがあいさつに来たのか、鮎の大漁はあの世で先輩釣師へのみやげ話のためと、思えてならなかった。

7月の初め、精密検査の結果で異常なしとの朗報に、心身ともに気分一新したのであった。

プラス指向で、前記の2件のできごとを考えてみた。自然が回復したからホタルが舞ったのではない。川がきれいになったから鮎の大漁となったのではない。つまり、ホタルは河川工事でたくさんのカワニナが出た。豊川浄化センターに勤務する会員の鈴木千夜子さんがカワニナを飼育しホタルを発生させたいとのことで分け与え、その残りをきれいな川床に移しておいたのが発生に結びついたと考える。鮎の件では、川床を3メートル四方清掃し、石を並べ人工的に鮎の住みやすい場所をつくっておいたのがよかったのではなかろうか。そんな思いがしてならない。生物が、こわれた自然の中で生きるのにどんなに苦勞しているかがわかる。例えば、一時的にせよ、よりよい環境にすれば、それなりの効果がある。改めて自然の大切さを教えられた。

今年の支部総会で、豊川の自然の移り変わりや鮎の話等を編集長の神戸さんと話し合った。

ぜひ協議会ニュースに一文をと要請され、一旦いやだと言ったものの、ついに書くはめとなった。



豊川放水路ができる前の豊川の流路と当古町の位置 (大正13年 大阪毎日新聞版より)

自然保護ということで植物採集や昆虫採集の是非が言われている中、釣りはどうかの話もあり、不謹慎だとそのしりは免れないだろうが、まとめる気になった。話の内容が豊川河口から13～15キロの一地点(豊川市当古町)にすぎないことや、時代が昭和10年ごろから始まる話でピンとこない面もあるだろう。昔を語るは老化現象の始まりというが、豊かな自然の中で人と生物が協調しあって生きてきたかを知ることによって、自然の大切さを知る材料となれば幸いである。

川の姿、自然が変わった

その昔、姫街道唯一の渡し場『当古の渡し』も昭和8年、橋の建設で様相は一変した。川の流れは三河男児の歌に見られるように、『清き流れの豊川』のように、瀬あり、淵あり、瀬場ありの文字どおりの川の姿であった。護岸も自然堤が多く、洪水時に昆虫は水先に乗って逃げ場があったが、現在のコンクリート護岸では滑

り落ち逃げ場もなく、水死を待つばかりの状況である。昨夏の洪水時、昆虫の種別調査を鈴木友之さんに行ったとき、数の把握は容易であったが死んでいく虫が可哀相で家に持ち帰り、スズムシを飼育して、思いがけなく秋の夜の風情を楽しむことができた。



写真1. S. 39の当古橋付近川岸（筆者撮影）

川の流れがなくなり池のようになったのは、高度経済成長時代に川砂、砂利を採取したのが原因である。かつては、写真1. で判る様に、川岸には大きなクスノキ・マツがうっそうと茂っていた。そこにフクロウがいて、腕白ざかりの子供の頃、母親の手鏡を持ち出し光の反射でフクロウの目を照らし、卒倒させた悪遊びは忘れられない。川岸から目にも止まらぬ速さで、水中に飛び込み魚をくわえてくるカワセミも数多くいた。洪水でできた池のようなところにコイ、フナ、カラスガイがいて、カラスガイの大きさを競ったものであった。川岸の竹藪にはアケビがたくさんあり、おやつ代わりに食べたものである。桃太郎の話のように、母親に連れられて川で洗濯、洗いものはすべて川でした。川と密着した生活であった。もちろん、水浴び、水泳は毎日の日課であった。現在のように、川での水泳が禁止されると、自然と切り離され嘆かわしいことである。このような豊かな自然がなぜなくなってしまったのか、その原因を数えれば枚挙にいとまないが、もう昔の姿には戻らない。これ以上破壊の進行をさせてはならない。

鮎との出会い

小学6年生（昭和12年）当時、国策で養蚕業は花形であった。ある日、蚕具を川で洗っていた時、隣のおやじさんが釣りをしていた。おやじさんが小用のため一時竿を預かった。このとき、ガツンと竿に当たる衝撃、糸の鳴る音、びっくり仰天、胸は高鳴りどうしてよいかわからず、とりあえず川岸に引き上げてびっくり、大鮎であった。これが初めての友釣りであった。その感触は今でも思いだせば蘇ってくる。この感動が後に大人になってからのやみつきの原因でもある。

当時は釣り人のことを方言でポンスーと呼び一種風変わりな人種に見られ、人も少なくのんびりしていたものであった。今の竿の放列を見るとウソのような気がする。

鮎キチ、釣りキチになったもう一つの要因に古老が、鮎と話ができない者は釣師とは言えないと言ったことがある。もちろん、鮎との会話ができればはずはない。これは鮎の習性を知ることだと思い、古老の動作を盗見した。古老は見釣りといって瀬場でおとり鮎を野鮎の鼻先へ、右に左に尻尾へと持っていく、野鮎の反応を試していた。今ではビデオでこの姿は見られるが、当時は画期的な実験であったと思う。私も真似してやってみた。その日の天候、水温、光や鮎の状態で、一様の答えはつかめないものの、それなりの感触を得た。なるほどこれが鮎との会話だと知った。あとはこの基本の応用だけだった。次第に釣り技術も上達し、楽しさも増した。

ホームグラウンドの鮎について

今は湖産、海産、人工のものが放流されているが、これは河川産の遡上が減少したのと縄張り、闘争心の強い湖産のものが釣り人の要求にこたえるためであろう。

昔は春の遡上時には、川一面、帯を流したように群れをなしてのぼったもので、この広さを見て今年の鮎の豊凶を占ったものである。満潮時に海水の進入で、産卵期にはここから下流に

は下らないという地域のため、落ち鮎時には上流からのものの集合場所となる。そのため、想像を絶するほどの大漁の日もある場所である。

約20年余り前のことだったと記憶するが、豊川の鮎はなぜ減ったか、という新聞特集があった。専門家から素人を交えて、いろいろな意見が述べられていた。私なりに考えれば、生物は環境次第という考えからみれば、鮎は瀬の石にすむものである。瀬がなくなり、石がなくなれば鮎はすみにくくなるのは当然のことだと思った。

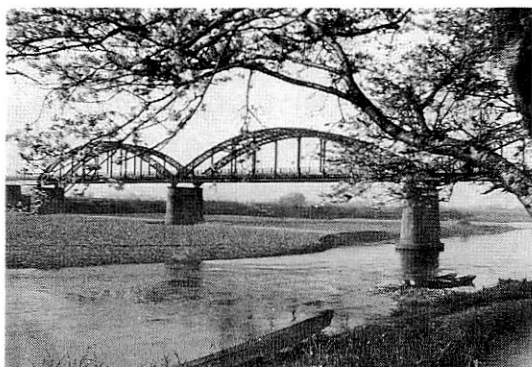


写真2. S.25 頃の春の当古橋(筆者撮影)

鮎の不思議あれこれ

鮎の自然界の位置づけは一科、一属、一種という珍しい魚で、現在では鮎についての調査研究が行われ、その生態、習性が解明されつつある。私が鮎と出会ったころはまだ不明な点も多くあった。昭和20年代の後半と思うが、大学の先生と名乗る人が私の釣り場に来て、底の石についた鮎のハミ跡やら1メートル四方の中にある石についた鮎のハミ跡の略図を書いてくれとの注文があった。いわゆる鮎の縄張り調査である。その依頼人は後になって、岩波新書、宮地伝三郎著の「鮎の話」を読んで思い当たる節もあり、宮地先生と思ったが氏が1901年生まれという年齢差から考えてそうでない気もする。同書の110頁の稚魚の回遊の項を見れば、同じグループの一員のような気もする。ともあれ、大学の先生とあればまたとない機会。私が常日頃なぞと思っていたことを尋ねた。それは、鮎の産卵期はほぼ最盛期は1カ月で、この間に生

まれたものが大は25センチから小は5センチと差がある。この差はどこに由来するものかが常日頃の疑問であった。答えは、大正2年に石川千代松という人が琵琶湖産の鮎を多摩川に放流したら大きく育ったという実績があるとのことであった。この話に赤面し、目からうろこが落ちたというように、鮎の新鮮な情報に感激したものであった。

その他いろいろ考えていることがある。

現在、放流鮎といえば湖産、海産、河川産、人工種苗とさまざまな鮎が放流されている。このように生まれ、育ちも違うものが同一河川に放流されてそれぞれの個性を発揮している。なぜこんなに個性の差があるだろうか。

鮎は一生のうちで、4～5月は昆虫食、以後は藻類しか食べないという。一生のうちで食生活を変えるのは鮎だけだ。なぜなのか。

戻し鮎といって、夏の洪水時に河口から遡上したものが流され、生まれ故郷近くまで戻り、その後は遡上しないというのは生まれ故郷を知っているためなのか。

下り鮎(落ち鮎)の産卵は、彼岸花の開花に合わせて行われるのはただ水温、気温だけでなく、寸分違わない時期に行われる不思議さは何かがあるように思われる。産卵場における性比は1対9とか1対15とかいって雄の比率が断然高い。その比が逆転して雌が多くなれば、もはや産卵終期を告げる。結婚できない鮎の雌が、越年鮎に雌が多いという証なのだろうか。人間社会でも女性が長寿ということに一脈通じる話だろうか。越年した鮎を「コシュツボ」または「フルセ」という古人はどこからこの名の由来を考えたのだろうか。

さきに述べたように、河川には生まれ、育ちの違うもの同士がすんでいて、受精の際に混血しないだろうか。混血したものの習性は、どう変化するのか。

今の流行のバイオテクノロジーの技術で3倍体の鮎がつくられるという。生態系に与える影響はどうか。香魚と言われるあの香りは、ケイ

ソウを食べるからだという。それではほかの魚になく鮎だけというのはなぜだろうか等々の疑問、不思議な課題は山ほどある。

釣り道具が変わった

今、釣り道具屋のウィンドウをのぞけば、目を見張るような竿、釣り糸、釣り針、小物類が所狭しと並んでいる。私が釣りを始めたころは竹藪から真っ直ぐな竹を切って使い、釣り竿としたものだった。後に竹の接ぎ竿、グラス竿、カーボン竿となった。テグスも当時は弱くよく切れたものだった。今は切って切れない強さを持ち、それが災いして鳥や人間に悪影響を及ぼしている。マナーを守ってほしいものです。昔はハリスに馬の尻尾の毛が弾力に強いということで重宝がられたものだった。釣り針も今は縛って売られ、種類も多く、選択に困るほどである。解禁前に釣り針を縛りながら、あれこれ釣りを思い、釣りの心を満たしてくれる作業である。

漁法が変わった

今、釣り雑誌を見れば、何々大会の優勝者はこんな釣り方だった。〇〇釣りだという記事が目に入る。私はさきにも書いたように、見釣りで釣りを覚えた。この釣りは鮎の習性をいかに利用して釣るかが基本だ。友釣りはおとりをいかに自然に泳がせ、縄張り荒らしに見せかけて闘争心をあおるかの知的ゲームであるとともにおとりの元気のよいものと交換が早くできるかがポイントで、おとりの循環ゲームである。私の釣り場には河川産が多く、釣り技術には苦労であった。なれ親しんだ我流の釣り方を今後も続けるつもりである。友釣りの醍醐味はかかった鮎との力比べである。昔は急流でなくても普通の瀬でかかった鮎は10メートル近く下流に下って釣り上げたものである。今はそんなことはできない。それは竿がよくなったのか、糸が丈夫なのか、鮎が弱くなったのか、釣り場に人が多すぎてできないのか、それぞれに思い当たる節があるが、真実はどうなのか。ともあれどんな漁法が編み出されようが、鮎との知的ゲーム

に変わらない。

エピソード

私は物事に対してなぜだろうと疑問を持って対応している。解決は自分の経験から判断で処している。いわゆる我流というやつである。そんな考えで思いつくままに書いた。間違いだらけの話で大方のお叱りは免れないだろうが、これは経験談としてお許し願いたい。

鮎は環境指標生物として環境のお目付役でもある。今、釣りブームの中で鮎釣り人口は爆発的な増加だという。たかが鮎というなかれ、この魚は生まれ育ちに習性において私たち人間が教えられることが多い。資源愛護の面で植物、昆虫採集不可とは切り離して1年生魚ということで産卵期を守れば許されるであろうとは身勝手な解釈だろうか。河川の自然保護と並行して釣り針、釣り糸を含めた環境保護と釣り人のマナーを守り楽しみたいものである。ここである書物で読んだ言葉を引用して結びとしたい。

1人のみずばらしい老人が、友釣りをしていた。隣に若者がいた。老人は若者に「今日は何尾釣れた?」と聞いた。若者は「15尾だ。」と答えた。「朝早くから15尾は少ないな・・・」と老人が言うと、若者はむっとして「お前さんは何尾だ?」と言った。老人は「1尾だ。」と言う。「何だ、たったの1尾か。」と若者はせせら笑った。老人は「夕方までにもう1尾釣るからな、それもフルセ(越年鮎)をな、わしのと老妻のと2尾あれば結構じゃ、若鮎を釣るのは忍びないからな。」と言った。

この話、私のこれからの心境を言い当てて、妙なる気がする。この言葉を胸に刻み、自然を守り、自然の中の一員として体の自由がきく限り楽しみたいものである。

「愛知の自然観察」を読んで

名古屋支部 朱雀英八郎

「愛知の自然観察」が協議会で発行されたが、総会での発言と共に観察会に関わる中で感じていることなど述べたい

会の活動と観察会のあり方、佐藤さんの報告

観察会のあり方、問題点よくまとめている。

以下私見

課題1「継続する観察会」の持ち方、マンネリ化の中で指導員の参加が悪いのでないか、リーダも楽しめる、自然の好きな仲間づくり、観察会を続ける中で協会の観察会の方法も批判問われよう。理念でなく、リーダも楽しみながら続けることが基本ではないか、いろんなやり方がある。

課題2身近な自然が次々と減っていく中で黙っているのか、観察会を行っている場すら壊される、自然を大切にと言うだけでは、保護へのかわり、少なくとも実状の把握提起が問われよう

（観察会を継続して活動を一番よくやっているのは浅沼さんら尾張野鳥の会だと思う。平和公園でがんばっている仲間もいる。保護活動を含め野鳥の会の仲間もよくやっている。地域でがんばっている仲間と連携して行きたい。指導員協議会が万能でもない。批判が出るのも当然であろう

うまくPRすれば参加者は集まる。どう続けるか観察会だけが目的か、リーダ世話役が不足、育てることが課題

リーダ、サブリーダ大募集

3月猪高の観察会、100名を超える参加でお手上げです。手伝って下さい

動植物に詳しくなくてもいい、鳥、虫、花が好きならできます

（コース、地理、安全は指示、ポイントで簡単な説明だけ）

自分の好きなこと、感動を参加者に伝えることでいい。名前の知りたい方は後で教えます

春、秋（9月15日）にします

環境教育について 山田さん 理科教育大会で発表とのこと

環境教育とは何か。文部省、国連も言い出したが、新しい事か。その中味は何か、どこで教えるか。

環境教育学会もでき5月大会が愛知教育大（金森）でなされる。環境庁、環境協会そして自然保護協会、ゴミアースデーでも環境教育がいわれ、それぞれ意味ちがある。自然に限定して考えたい

自然にしたしむ活動

社会教育への広がり

して関わったことをかいたが

どう位置づけられるか 特に青年へのリーダが求められる。企画段階から関わり一番困ったことは一緒に参加してくれる講師の不足、もちろん人集めも大変だが、親しむ、楽しむ活動から自然、環境問題へのかかわりが課題

自然教育活動（雑誌）の紹介

次のような雑誌が農文協からだされている。自然観察や環境、農業食文化にせよ この雑誌などにあるように、これまで学校、家庭の遊びなどでなされてきたことであり、特に地方では学校教育で実践されているで、いま自然が失われつつあり、豊かさのなかでTV、ファミコンなど子供の遊びも代わって改めて問われよう

自然と人間を結ぶ自然教育活動

農文協発行

資料コピー可

- | | | |
|----|---|--|
| 14 | 暮らしの中の川を学ぶ 特集
湿地のくらし今と昔
柳川堀割に水と暮らし
イカダ遊びから環境研究
歩こう園庭は野山だ | 千葉佐原小
北海道小
山形県中
横浜トトロ幼 |
| 16 | 千牛との出会いから
今だから栽培実習を
生活科総合学習にワタづくりを
四季の野草クッキング | 豊橋小 安藤
北海道中 |
| 17 | 自然と食と教育を考える
園庭は山と川 24時間レース
生活を視る 道具たち | 亀岡市保
特集
トトロ幼
岡本信也 |
| 18 | 身近な地域から環境を考える
現地形を生かしたエコロジー
郷土の川から
自然と共存の心、アイヌの人々
環境教育を地域から
環境教育と冒険学校の方向性
野原での出会いと表現を大切に
自由な生活科を
学校と地域を 生活者の発想で
生活を見る眼 フレネ教育から
40年低学年の総合教育散歩科
（生活科への危ぐ 評価と教科書
四季の自然観察 16-19 | 東京神田 高理
宮崎県中クラブ
東京学芸大 佐島
環境学会第2回から
岩手幼
特集
斉藤次郎
東京成城学園
世田谷トラスト
横浜市小 和泉 |
| 19 | 土の中の生き物をみよう
ヤモリとアリゾグク
冬の渡り鳥 カモの仲間
冬の森に出かけよう 越冬芽 | |

会 員 の 動 き

【住所変更・住所表示変更】

浅井聡司（名古屋支部）

〒463 名古屋市名東区一社三丁目 87
ユウチマンション 108
☎ 052-703-9482

川崎慶子（名古屋支部）

〒463 名古屋市名東区本郷 2-57
C1第3 N-1103
☎ 052-774-7753

玉井房子（名古屋支部）

〒470-01 日進町東山 3丁目 1710

鶴田一昭（尾張支部）

〒456 名古屋市熱田区大宝 1丁目 14
白鳥パークハイツ 3-517
☎ 052-683-6057

山田裕嗣（尾張支部）

〒487 春日井市白山町 3-15-11
☎ 0568-51-7415

【脱 退】

鈴木行雄（東三河支部）

武田平八（尾張支部）

森島静子（尾張支部） 浦安市へ転出

鈴木さん、武田さんは、病気のためお亡くなりになりました。心から御冥福をお祈りします。

編集後記

★3月22日、協議会の総会が名古屋の中小企業センターで行われました。参加者が少なく、寂しい感じがしました。会員のみなさ～ん、来年は、大いに参加しましょう。

★寂しい感じを持ったのは、例年の様に展示物がなかったことにもよります。展示コーナーは誰でもあった方が良くと思うのですが、準備が大変。でも来年は前々から協力して準備しましょう。

★総会で、今年度からの新しい組織である運営・普及・調査・編集の各部会の委員を公募したらという意見が出されました。大賛成です。原則的には、各部会の委員を支部経由でお願いしました。しかし、ご自分で委員として活動を希望される方は、遠慮なしに各部会長に是非お申し出下さい。現在どの部会も発足間もなく、十分な活動はできておりません。大世帯になった協議会を考えると、もっともっと新しい会員の力が加わればと思っています。特に編集部会は私（神戸敦）と「愛知の自然観察」編集担当の吉田義人さん、それに各支部の通信員の方で構成しています。「協議会ニュース」の編集は私一人でやっています。米年以降を考えると、あと2～3人の委員が加わってくれたらと切に思っています。副部会長は現在、次々と断られ空席です。どうぞ、暖かくお迎えしますので、是非編集部会に応募してください。

★総会後の懇親会は大変楽しいものでした。名古屋支部の虎さんこと椿さんのパフォーマンスや浅井さんの新婚生活マル秘報告などなど・・米年もしっかり計画しましょう。斉竹さん始め幹事の方、ご苦労さまでした。

★今月号もワープロで送られて来た原稿はそのまま、お載せしました。編集者の負担は軽くなるし、原稿の編集段階での打ち間違いによる誤字は防げます。今後もこの方式でいきますので是非投稿してください。会員の意見、情報の発表の場として保証されていますので、活用してください。皆の機関紙として育てて下さい。

★次号（40号）は7月発行です。休み前ですので、夏休み中の観察会の計画等々、情報提供をお願いします。原稿の締切りは6月10日です。

編集部会 〒440 豊橋市多米中町1-12-3

神戸 敦 ☎0532-62-5308

5月～7月の行事案内

*他支部の行事にも参加出来ますが、急な変更があるかもしれませんので照会の上、御参加下さい。

- ①主催 ②集合場所・時間 ③照会先
④行事のねらい ⑤参加資格・費用 ⑥備考

【5月8日(金)身近な野草の試食会】

- ①知多自然観察会 ②阿久比町中央公民館
19:00 ⑤200円

【5月10日(日)尾張支部月例観察会】

- ①尾張支部 ②名鉄善師野駅
③大竹勝 ☎0568-61-3659
④犬山市善師野 ― 世界中で東海地方しかないモンゴリナラを見よう

【5月31日(日)「磯の生物」観察会】

- ①県委託・知多支部 ②美浜町野間大坊
10:00 ③県自然保護課
④春の磯の生物の様子を知ろう
⑥水に濡れてもよい服装

【5月31日(日)どうする自然・愛知万博シンポジウム】

- ①シンポジウム実行委員会 ②名古屋市公会堂 12:30 ③☎052-831-3559、0561-41-1466 ④海上の森は愛知万博の予定地となり危機を迎えています。私たちに何が必要か考えたい。内容 ― ビデオ上映、南修二・亀井敏彦・角橋徹也・牧野剛・金森正臣各氏の歌や講演など ⑥入場整理券500円

【6月7日(日)身近な自然の森観察会】

- ①知多支部・半田市立博物館・県知多事務所林務課・全県一斉 ②半田市立博物館10:00
⑤一般・無料

【6月7日(日)小幡緑地竜巻池緑ヶ池周辺観察会】

- ①名古屋支部・全県一斉 ②公園駐車場
9:30～12:30

【6月7日(日)五社稲荷観察会】

- ①東三支部・全県一斉 ②五社稲荷
③天野保幸 ☎05338-7-6012
④段丘崖の植物と泉

【6月7日(日)犬山市善師野観察会】

- ①尾張支部・全県一斉 ②善師野駅
③長谷川洋二 ☎0587-55-4674
④里山の初夏は自然がいっぱい

【6月7日(日)水梨川流域自然観察会】

- ①奥三河支部・全県一斉 ②東栄町、古戸小
10:00 ③石川静雄 ☎05362-2-1171
④奥三河の自然探訪 ⑤会員・一般・無料

【6月12日(金)川や池の生物観察】

- ②阿久比町中央公民館・室内研修 18:30～
⑤一般・無料

【7月10日(金)虫の音の鑑賞】

- ②阿久比町中央公民館・室内研修 18:30～
⑤一般・無料

【7月12日(日)裏谷原生林観察会】

- ①尾張支部 ②段戸湖湖畔駐車場
③北岡明彦 ☎0561-84-2953
④愛知県一の巨木林を歩こう

【7月26日(日)阿久比川の生き物調査】

- ①知多自然観察会 ②阿久比町中央公民館
8:30～ ⑤一般参加可・無料

【7月26日(日)長篠城～鷹ヶ巣山観察会】

- ①奥三河支部・県委託 ②JR長篠 10:00
③石川静雄 05362-2-1171 ④長篠の戦い史跡、自然探訪 ⑤一般・無料

【8月8日(土)～9日(日)一泊研修会】

- ①東三支部 ④秘湯もしか温泉にて研修

【8月9日(日)岐阜県美山町神崎観察会】

- ①尾張支部 ②美山町役場 ③北岡明彦
☎0561-84-2953 ④川遊びと溪谷の植物探し

【8月23日(日)東三河滝めぐり】

- ①東三支部 ③高橋康夫 ☎0532-62-2204